症 例

右心房内血栓との鑑別が困難であった心臓脂肪腫の1例

相模原協同病院心臓血管外科
岡 元 崇 藤 崎 浩 行

心臓脂肪腫は良性心臓腫瘍のなかでも比較的頻度の少ない疾患である¹⁾。ときに血栓や他腫瘍との鑑別が困難な場合がある。

今回、私たちはスクリーニングによって偶然に見つかり、カテーテル血栓との鑑別が困難であった心臓脂肪腫の1例を経験したので報告する。

索引用語：心臓脂肪腫，血栓，右心房壁

はじめに

原発性心臓腫瘍は比較的稀な疾患で、発症率は0.0017-0.19%と報告されている²⁾。最も頻度の高いものは粘液腫である。脂肪腫に関してはその発生頻度は8.4%である¹⁾。一般に心房、心房中隔から発生することが多い。しかし今回のように心房壁から心房を巻き込んで発生した症例は比較的少ない³⁾。

今回、私たちはスクリーニング検査にて心臓腫瘍を発見し、右心房内のカテーテル血栓との鑑別が困難であった心臓脂肪腫で外科的に切除した症例を報告する。

症 例

症例：65歳，男性。

主訴：特になし。

既往歴：高血圧，腎不全。

現病歴：末期腎不全で平成24年9月に透析導入となった。その際にスクリーニングのため心臓超音波検査を受けたところ、右心房内に腫瘍を認めた。透析用カテーテルと連続性が見られたため、血栓との鑑別が必要であった。

肺塞栓などの危険性が高いと判断されたため外科的に摘出することになった。

入院時現症：身長173cm，体重71kg，血圧138/66 mmHg，脈拍72回/分，整。

明らかな心雑音などは聴取できず。

血液生化学検査所見：Hb 8.2g/dl，と腎性貧血を認

めた。BUN 117.8mg/dl，Cr 8.32mg/dlと高度の腎機能低下を認めた。

胸部レントゲン写真：心胸郭比47%，肺うっ血など認めず。異常陰影を認めず。

12誘導心電図：正常洞調律，78回/分。

心臓超音波検査：心内の上大静脈から右心房開口部付近で透析カテーテル先端と連続するように約60mm大の腫瘍を認める。心拍と同期して可動性がある (Fig. 1)。

造影CT：右心房内もしくは右心房に接して脂肪濃度の腫瘍を認める (Fig. 2)。

術中所見：全身麻酔導入後，胸骨正中切開にてアプローチした。

心膜を切開し，全体を観察してみると，右心房自由壁に広く癒着した平面滑で，弾性硬，右心房壁との境界が明らかでない黄色の腫瘍を認めた。右心房壁との剥離が困難と判断されたため，上行大動脈送血，上下大静脈脱血にて人工心肺を確立し，心拍動下に腫瘍を右切除した。部分的に右心房との剥離が可能であったが，部分的には右心房とともに腫瘍を摘出した。腫瘍の大きさは6.5cm × 4.7cm × 2 cmであった。右心房内腔のその他の部分に明らかな腫瘍を認めなかった。右心房壁の欠損部は直接縫合閉鎖できた。

人工心肺の離脱は容易であった。

術後経過：術後経過は良好で，不整脈の発生などもなく，術後7日目に独歩で退院した。

術後の病理組織診断で心臓脂肪腫と診断された (Fig. 3a, b)。

考 察

心臓原発性腫瘍のなかでは脂肪腫の割合は少なく8.4%である¹⁾。発生部位は心房，心房中隔が多いが，

2013年6月17日受付 2013年7月1日採用

〈所属施設住所〉

〒252-5188 相模原市緑区橋本2-8-18

Fig. 1 経胸壁心臓超音波検査
右心房内に3.27×4.10cmの腫瘍を認める.

Fig. 2 造影CT検査
右心房内もしくは右心房壁に接して直径約4cmの腫瘍を認める。CT値は脂肪濃度であった。

今症例の様に心房壁を巻き込んで発生した脂肪腫は報告例が散見される程度である³⁾。

文献的には症状は胸部圧迫感、不整脈、心不全症状などであるものの今回の症例は症状がなく、偶然に心臓超音波検査で発見された³⁾。術前検査で腫瘍の性状については他症例報告と同様に粘液腫、血栓との鑑別が考えられたが、今症例は術前から透析用カテーテルが右頸静脈を経て右心房内に留置されており、超音波検査では腫瘍とカテーテルとの連続性も認めたことから、特に血栓との鑑別が困難であった。しかし造影CTでは腫瘍のCT値が脂肪濃度であったことから、脂肪腫が示唆された。今回は外科的治療が選択されたが、無治療でも腫瘍の増大がなく症状の発現がない症例報告もあることから⁴⁾、血栓や粘液腫との鑑別が決定的であるならば無治療での経過観察も選択枝の一つと考えられた。

Fig. 3a 摘出標本
直径6.5×4.5×2.0cm、黄色調の軟部腫瘍で脂肪に類似している。

b 病理組織像

H.E.染色 対物レンズで10倍。

成熟した脂肪細胞から構成され核異型や分裂像がみられず脂肪腫として矛盾しない。

a
b

むすび

比較的稀な右心房壁より発生した心臓脂肪腫の1例を経験した。

カテーテル血栓との鑑別は困難であった。

文 献

- 1) Gan C, An Q, Tao K, et al : An asymptomatic lipoma of the right atrium in a neonate. J Pediatric Surg 2008 ; 43 : 1920-1922
- 2) Reynen K : Cardiac myxomas. N Engl J Med 1995 ; 333 : 1610-1617
- 3) 石丸和彦, 岩崎弘登, 石坂 透 : 心房内腫瘍の診断で手術を施行した心筋内脂肪腫の1例. 日心臓血管外会誌 2010 ; 39 : 325-327
- 4) Ganame J, Wright J, Bogaert J : Cardiac lipoma diagnosed by cardiac magnetic resonance imaging. Eur Heart J 2008 ; 29 : 697

A CASE OF CARDIAC LIPOMA MIMICKING THROMBUS

Takashi OKAMOTO and Hiroyuki FUJISAKI

Division of Cardiovascular Surgery, Sagamihara Kyo-do Hospital

Cardiac lipoma is a benign cardiac tumor, and its frequency is relatively rare. We report a case of cardiac lipoma which we found incidentally during echocardiography.

Key words : cardiac lipoma, thrombus, right atrial wall